

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

平成30年度病虫害発生予報第2号(5月)について

このことについて、病虫害発生予報第2号を発表したので送付します。

予報第2号

<予想される向こう1か月の天候(平成30年4月28日~平成30年5月27日)>

暖かい空気に覆われやすく、向こう1か月の気温は高い見込みです。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間(数値は予想される出現確率)

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低10 並30 高60% 高い見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少40 並30 多30% ほぼ平年並の見込み

(福岡管区气象台 平成30年4月26日発表抜粋)

5月における主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病虫害名	現況 (発生量)	5月の発生予報 (発生量)	
		平年比	平年比	前年比
カンキツ	ミカンハダニ	少	少	少
ナシ	黒星病	並	並	並
カキ	フジコナカイガラムシ	やや少	やや少	少
果樹共通	チャバネアオカメムシ	—	多 (前年比)	
茶	カンザワハダニ	少	並	
	チャノキイロアザミウマ	少	少	

注1) 予報の発生量は平年(福岡県の過去10年間)及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

注2) 予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病虫害の発生条件を必要に応じて記載しています。

それぞれの条件は、少発生(-)、やや少発生(-~±)、並発生(±)、やや多発生(±~+)、多発生(+)として示し、+-を総合的に判断して発生量を予想しています。

注3) 果樹共通・チャバネアオカメムシの現況は、年次変動が大きいため前年比としている。

## 作物別発生予報

### 【果樹：かんきつ】

#### 1 ミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(－)。

寄生葉率 1.1% (平年 6.0%、前年 9.2%)

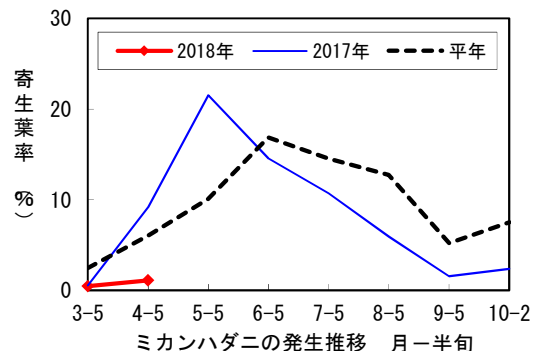
発生ほ場率 20% (平年 46.4%、前年 27.3%)

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている(±～+)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤の連用を避ける。

イ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 5の内容を確認の上、適切に実施する(以下の病害虫についても同様)。



### 【果樹：なし】

#### 1 黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 0% (平年0.03%、前年0.03%)

発生ほ場率 0% (平年8.6%、前年18.2%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

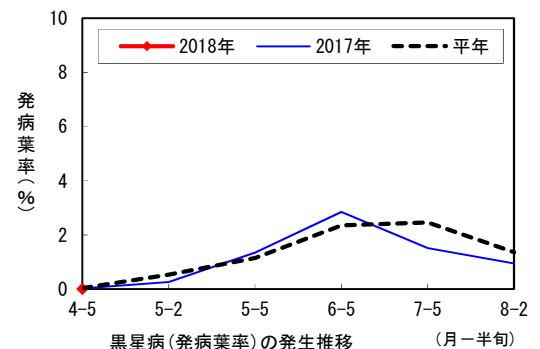
(3) 防除上注意すべき事項

ア 伝染源となる罹病葉や罹病果は、見つけ次第園外に持ち出し処分する。

イ 薬剤感受性の低下をさけるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

ウ 薬剤防除にDMI剤 (FRACコード:3) やQoI剤 (FRACコード:11) を用いる場合は、薬剤耐性菌の発生リスク低減のため、DMI剤の使用回数は年間で3回以内、QoI剤は2回以内にとどめる。特にDMI剤を用いる場合は、保護殺菌剤と混用することにより防除効果の維持が期待できる(詳細は、県ホームページに掲載している『平成30年度版病害虫雑草防除の手引き』 3防除方法の試験研究成果等 【3-5】果樹 IV ナシ黒星病菌のDMI 剤感受性とDMI 剤と保護殺菌剤の混用効果 (P11~12) を参照)。

[http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/295937\\_53059503\\_misc.pdf](http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/295937_53059503_misc.pdf)



### 【果樹：かき】

#### 1 フジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

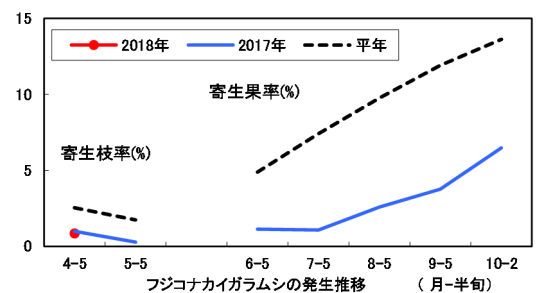
(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(－～±)。

寄生枝率 0.9% (平年 2.5%、前年 1.0%)

発生ほ場率 41.7% (平年 52.5%、前年 63.6%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。



(3) 防除上注意すべき事項

ア 天敵への影響が比較的少ない薬剤で防除する（防除対策の詳細は、県ホームページに掲載している『平成30年度版病害虫・雑草防除の手引き』3 防除方法の試験研究成果等 【3-5】果樹 X フジコナカイガラムシの発生生態と防除対策 (P57～65) を参照）。

[http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/295937\\_53059503\\_misc.pdf](http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/295937_53059503_misc.pdf)

**【果樹共通：チャバネアオカメムシ】**

(1) 予報の内容

発生量：前年・前々年より多（前期多発年の平成26年並）

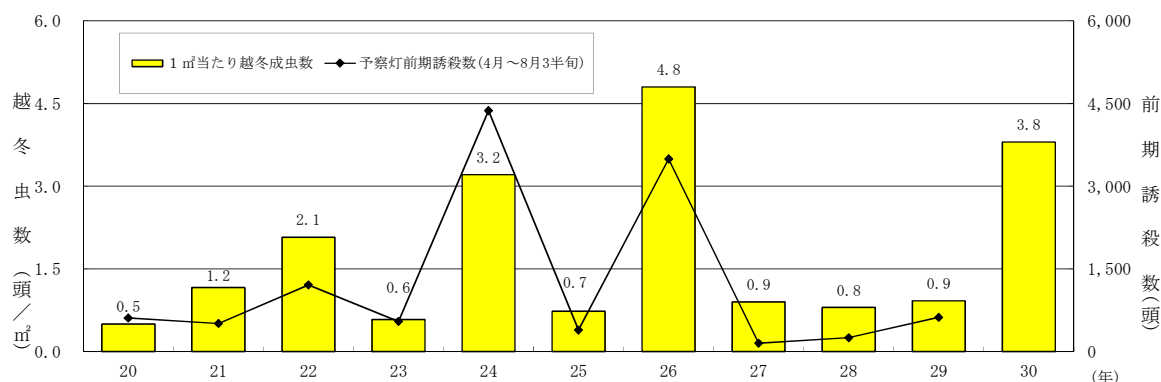
(2) 予報の根拠

チャバネアオカメムシの1㎡当たりの越冬量は平均3.8頭（前年0.9頭、前々年0.8頭）で、前年より多く、前期に多発した平成26年並である（+）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になるので、気温の推移や地域の予察灯の誘殺状況を確認する。

イ ウメ、モモ、スモモ、ナシ、カンキツ等では、園内の発生状況の把握に努め発生に応じて防除を行う。



チャバネアオカメムシの越冬虫数と予察灯による前期誘殺数の年次推移

**【果樹：その他の病害虫】**

作物名 病害虫名	現況 発生量	5月の発生予報 発生量		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ そうか病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発芽直後～展葉期の薬剤防除を徹底し、初期発病を抑える。</li> <li>罹病葉は伝染源になるので除去する。</li> </ul>
なし 赤星病	少	少	少	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤星病の小生子飛散はほぼ終息していると思われるが、ビャクシン上の降雨でぬれにくい場所に冬胞子堆がある場合は、降雨後に小生子が飛散する可能性があるため注意が必要である。</li> </ul>

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(－)。

寄生葉率 0.0% (平年 5.2%、前年 1.5%)

50葉当たり虫数 0.0頭 (平年 13.5頭、前年 0.8頭)

発生ほ場率 0% (平年：44%、前年 50%)

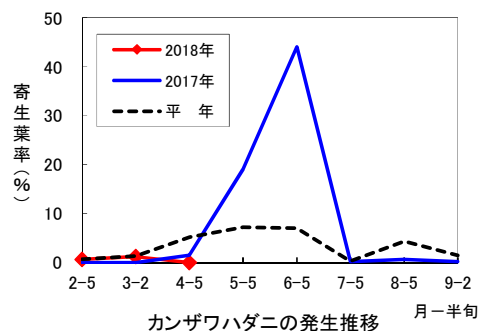
イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている(+)。

(3) 防除上の注意

ア 発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は、効果の高い薬剤で速やかに防除を行う。また、霜害後は多発しやすい傾向にあるので、特に注意する。

イ 薬剤は、寄生の多い裾葉・葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



2 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(－)。

たたき落とし虫数 0.0頭 (平年 1.6頭、前年 0.1頭)

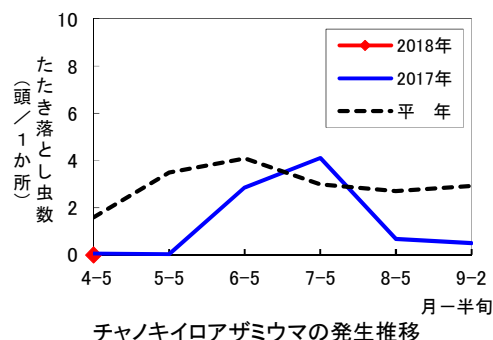
発生ほ場率 0% (平年 54%、前年 25%)

イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている(+)。

(3) 防除上の注意

ア 例年5月中旬から密度が上昇するため、発生状況をよく観察し、たたき落とし(B5判上)で10頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。



【茶：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (5月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
チャノミドリ ヒメヨコバイ	並	並	やや多	・発生状況に注意し、たたき落とし(B5判上)で4頭以上発生している場合は防除を行う。 ・一番茶摘採後、又は二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。
チャトゲ コナジラミ	少	並	並	・チャトゲコナジラミは年3～4回発生する。防除適期は若齢幼虫発生期で、親世代成虫の発生が収まった頃である。第一世代幼虫の防除適期は、例年平坦地では5月中旬頃、山間地では5月下旬頃である。 ・幼虫は葉裏に寄生しているので、農薬の散布にあたっては、葉裏に十分にかかるように丁寧に散布する。

## 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

### 1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

○有効期限切れの農薬は使用せずに、産業廃棄物として処分する。

### 2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフト低減ノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

### 3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

### 4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗淨

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗淨する。

### 5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

### 6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しています。

携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと、病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。

